

中田かわら版 4 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい〈84〉

指圧の心は母心

指圧師 稲葉 哲夫さん 85 歳 (広町)



押せば命の泉湧く

聞き覚えありませんか？

そうです。日本で初めて日本随一の指圧学校を設立した浪越徳治郎先生の有名なキャッチフレーズでした。その指圧学校の直弟子の 3 期生が、広町で治療院を開院している稲葉先生です。

北海道旭川の出身。中学校、旭川東高等学校では、ブラスバンド部で、チューバを担当していた。

結構いい音が出せているのを知っていた先輩が、自分と同じように東京藝術大学を目指すことを勧めた。

上京し受験したが一年目は失敗。その時お世話になったのが浪越徳治郎先生。東京都文京区、柔道の講道館近くに浪越指圧治療院と浪越学園・日本指圧専

門学校（昭和 15 年）が開設されていた。お世話になった恩返しをしなければと考えていた時、浪越先生からの誘いがある指圧学校に入学した。藝大受験のための音楽院通いや、勉強時間も都合してもらいながら、2 年間で指圧学校を卒業し、卒業後は指圧治療院の仕事しながら藝大を受験。みごと別科に合格し、藝大生となった。

最後の受験の時は、「あん摩・マッサージ・指圧師」の国家試験と藝大の試験が重なり、大変だったと述懐された。『手当』は、医療の原点。神代の昔 少彦名尊（すくなひこなのみこと）から伝わる指圧を手技療法に加え独自の創造と哲学を織り込んで新しい日本の指圧を確立した浪越指圧は、今では世界中に広がっている。

稲葉先生は、東京中野で 6 年、新宿で 4 年開業の後、中田で開院。昨年は、10 か月間入院生活を経験されたが「入院中に心が若返り、60 歳代の気分になった。これからは、使命感を持ってもっと多くの人に指圧を知ってもらうために動きたい。はっ、はっ、はっ」と浪越先生そっくりの笑顔をされる。

長い入院生活で強く思ったことは日本のリハビリテーション科は指圧をもっと積極的に取り入れて原点の『手当』を大切にしたい。手当をすると自らの力で治療の効果も高まるのか。

部屋の中には大きなチューバ、少し小型のユーフォニウム、クラリネットがおかれていて音楽が大好きなことが伝わってくる。藝大生の頃、各地を演奏旅行した体験が本当に楽しかった。行き当たる人から良い影響を与えていただいた。

穏やかな表情の中にも芯の強さ、真面目な努力が浮かぶ。「指圧 ひろめたい」にお供したい。

(小島 敏子)



■ きっとあなたのためになる

「ヨコハマあんしん登録」について

河内 満明

横浜市が令和7年11月から始めた事業で、ご承知の方も多いと思いますが、先日の講習会に参加してきましたので、その内容をご紹介します。

講習会開催日；令和8年2月14日(土) 会場；宮ノ前テラス
講師；黒澤 史津乃(行政書士ほか多資格保有)

この制度の目的

**65歳以上の横浜市民が対象で、単身か同居者有りかは問わず登録者に
何か起きた時、助力する横浜市の事業であり登録は無料！**

講師が挙げた幾つかの例では・・・

- ・ 自宅にいつまで住めるか、独り身で年金だけではやっていけなくなった。
- ・ 老々世帯で片方が急逝または長期入院などの時に誰が面倒をみるのか。
- ・ 元気な者が入れる有料老人ホームは超高額
- ・ 一人暮らしが出来なくなった時の判定・決定などを誰がやるのか。

等々さまざまな問題を考えて、あらかじめ横浜市に“あんしん登録”していざという時に対処して貰おう、と言う制度。横浜市はいち早くこの制度を取り上げ、全国に広げようとしている。



◆ ◆
横浜市の人口は約377万人、泉区の人口は約15万人。

お一人様世帯が増えている今、泉区も約30%がそうになっているらしい。(実に4万から5万人にのぼる)そしてこの傾向は全国的に見ても進むし減らない。故に孤立死や死後のことが放置されがちになる。

かかりつけ医療機関名、緊急連絡先、本籍地、遺言書の保管場所など7項目ほどを事前登録しておけば、自分が自分ではなくなった時、安心して事後処理を任せる事が出来る公的な制度である。

この事業についての問い合わせ先は下記

0120-101-350 ヨコハマあんしん登録コールセンター

編集後記

年度末となる3月。本紙「かわら版」制作編集委員会でも通常の編集会議に加え、会計報告など年度末らしい仕事もあった。中田地区経営委員会のプロジェクトとして活動している制作編集委員会には下記のメンバーが在籍し活動している。それぞれに地域で活躍して来られ、様々な繋がりもお持ちの方々である。

年齢に関係なく精力的に楽しみながら、コロナ禍でも休むことなく続けて来られたその姿勢には頭が下がる。この制作編集委員会、新年度に向けても新メンバーを絶賛募集中です。 嶋

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之